

皆さん、こんにちは。本日は「交通事故防止」について、少しお話をさせていただきます。

まず、私たちは年齢を重ねるにつれて、どうしても体力も反応速度も落ちていくものです。これは誰も避けられません。

先日、86歳でもとても元気な方から、こんな話を伺いました。

「相撲をテレビで見っていたら、テレビ画面の中央しか見えんのよ。端の時刻表示が見えんようになったんじゃ。」

この方は笑って話していましたが、加齢による変化はこうして確実に訪れます。

さて、世の中に“無事故無違反”の人は、実はほとんど存在しません。

「そんなことあるか!わしは無事故無違反や」…と言う方もいるかもしれませんが――

- ・車庫で柱にこすった。事故です。
- ・40キロ制限の道路を45キロで走った。違反です。

これらも立派な事故・違反です。

そして、皆さんに知っていただきたいことがあります。シルバーマークをつけている車、高齢者の方が運転している車は、周りのドライバーが自然と気を遣って運転しているということです。

高齢者の方が運転していると分かれば、車間を空け、急な追い越しはせず、周囲は皆さんを守ろうとしています。

事故はどちらか一方が注意していれば防げるものです。

だからこそ、周囲の気遣いに気づけなくなったとき――それが、免許返納を考える一つのタイミングなのかもしれません。

周りの優しさに気づける心をもって、安全に運転する。それが交通安全につながります。

以上、交通安全のお話を会長挨拶とさせていただきます。

メークアップ

04/14	北海道2500ロータリーEクラブ	松井君	04/16	北海道2500ロータリーEクラブ	友國君
04/15	eCLUB ONE	堀尾君	04/18	2026学年度カウンセラー・米山奨学生オリエンテーション	森君
04/15	北海道2500ロータリーEクラブ	大西君	04/21	理事会	井上君
04/16	高松RC	石濱君、野村君、香川君、槇塚君、池田君、山村君、長尾君			

客話「映画を100倍楽しく見る方法」

■映画産業の現状

・映画人口の変化: 1958年(昭和33年)は日本人1人あたり年間12本観ていたが、2025年は1.25本に減少、

・映画館数: ピーク時(1960年)の7,457館から現在は3,697スクリーンに減少、

・香川県内: 現在26スクリーン、年間350～400本が公開

■なぜ映画館で観るべきか

1.映画館用に作られた作品は映画館で観るべき - スマホやテレビ配信用とは異なる、

2.没入体験 - CM中断なし、2時間集中して感情の起伏を体験、

3.大画面の迫力 - 特に大作映画は大画面で観る価値がある

■映画を観る意義

・他人の人生を疑似体験できる、

・異文化に触れられる、

・社会問題への気づき、

・情操教育(子供向けアニメなど)

・エンターテイメントとして楽しみながら教養を深める

■映画鑑賞のすすめ

鑑賞前の準備:

・原作がある場合は原作を読む、

・映画評論家のエッセイや映画雑誌(『キネマ旬報』『スクリーン』など)を読む

鑑賞後:

・映画ノートをつける(日付、映画館、作品名、感想を記録)

■おすすめ作品

・『オッペンハイマー』『オデッセイ』(クリストファー・ノーラン監督作品)、

・『上を向いて歩こう 誕生秘話』、

・『ゴジラ』新作

結論: 若い世代はスマホで観る時代だが、映画館での鑑賞体験は特別なもの。ぜひ映画館に足を運んで、人生を豊かにしてほしい。

四国学院大学非常勤講師、かがわ長寿大学講師
エフエム香川ラジオパーソナリティ
帰来 雅基 様